

【出題意図】

コミュニケーション能力に関する作者の考えを正確に理解しているか、そのうえで自分の経験を通して、解答者なりの筋立てた議論を展開しているかを問う。

問1

作者によると、コミュニケーション能力とは、コミュニケーションが不調に陥ったときに、そこから抜け出すための能力であり、それは「ふつうはしないことをする」というかたちで発動する。そうした作者の主張を十分に理解できているかを問う。

問2

問1を踏まえた発展の問題である。作者のコミュニケーション能力に関する主張は本文中に貫かれているので、その主張に対する賛否を問う。その際に、例を挙げながら自分の考えを論理的に述べることができればよい。

【採点基準】

大きくは、次の4点に留意する。

- ・理解力：問題文を適切に理解しているか。
- ・論理性：論理的に説明がなされ、結論が導かれているか。また独善的すぎず、柔軟性のあ
る議論が展開できているか。
- ・思考力：自己の体験を盛り込むなど、主体的に取り組んでいるか。また独創的な側面を有
しているか。
- ・文章表現力：文章にまとまりがあり、表現が適切でわかりやすいか。

問1

コミュニケーション能力とは、コミュニケーションが不調に陥ったときに、そこから抜け出すための能力であり、「ふつうはしないことをする」というかたちで発動する。作者の主張を十分に理解し、適切な文章でまとめられていればよい。

問2

コミュニケーション能力を「ふつうはしないことをする」「適宜ルールを破る」こととする作者の主張について、賛否を示して、解答者なりの視点から分析し、論理的に説明できていればよい。